

三次の 重要文化財

第2集 神社・寺院にある文化財

20



45



1



7

神社関係

神像(しんぞう)

日本在来の神はもともと神像はありませんでしたが、仏教が日本に根付く中で、神と仏を一体とする考え方「神仏習合」が進む中で、神像も造られるようになりました。

① 木造神像

僧形神坐像1軀・女神坐像2軀 【広島県重要文化財】

室町時代の応永12(1405)年、和智元実が寄進した神像です。仏師はいずれも源中納言空心と伝えられています。僧侶の姿をした八幡神像と女神2軀があり、3軀とも作調は素朴で、底部には墨書銘があります。写真は女神像です。



② 絹本著色十六善神像【広島県重要文化財】

十六善神像は、古くから国を守るため多くの寺で祀られたといわれています。仏の周囲の金色の線が、鮮やかな良質の金泥で表現されています。また、画絹に織目の荒い素絹を使用していることなどから室町時代中期(15世紀前半頃)の作とされています。応永年間(1394~1427年)に京都で活躍した画僧明兆の作品と伝えられています。

中央に釈迦、前方左右には菩薩(白い象に乗る普賢、獅子に乗る文珠)と、左下方には玄奘三蔵法師求法、その他、画面左右に十六神像を描いています。



⑤ 寄木造本尊座像

貴重な文化財がたくさんあるね!



掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
①	木造神像	昭和33年1月18日	三良坂町田利八幡神社	県	僧形神坐像 一木造 像高48cm 膝張39cm 女神坐像 一木造 像高45cm 膝張30cm 女神坐像 一木造 像高38cm 膝張28cm	応永12(1405)年
②	絹本著色十六善神像	昭和33年1月18日	三良坂町田利八幡神社	県	絹本著色 縦125cm、横60cm	
③	御神体	昭和37年4月25日	粟屋町上村鳴戸神社	市	主神体 寄木造 高さ27cm 脇神体薬師如来像 寄木造 像高18cm 脇神体阿弥陀如来像 寄木造 像高22cm	天正10(1582)年
④	寄木造隨身半伽像	平成元年1月20日	作木町	市	寄木造 像高51cm、肩幅23cm	元龜2(1571)年
⑤	寄木造本尊座像	平成元年1月20日	作木町上作木作木八幡神社	市	寄木造 像高29.5cm、膝張30cm	天文19(1550)年

※ 掲載番号の赤丸数字は上部に説明文があります。黒丸数字は表だけの説明です。

神社にまつわる文化財

神社の境内にあるもの、祭礼で使うものなど。こま犬や手水鉢などは、『三次市の文化財5』で紹介しています。



6 神輿【広島県重要文化財】

神輿は神霊が、お旅所その他へ渡御される際に用いられる乗物で、お輿とも呼ばれます。

この神輿は八角形で、その基盤側面の剣巴文の文様はすぐれており、県内では他にありません。また、心柱を持つ珍しい構造で、古くはこの心柱に祭神を齋き祀ったのかもしれませんが。この心柱の意味は不明ですが、大社造りにある大極柱の系統をひくものか、または神輿を振り立てるための構造などが考えられています。内部の壁に永正14(1517)年創建の墨書があります。

7 銅製鰐口【広島県重要文化財】

南北朝時代に奉納したといわれ、存銘のものでは県内で最も古い鰐口です。もとは、高尾山八幡宮に奉納されていましたが、明治41年に八幡宮が知波夜比売神社に合祀されたので同社蔵となりました。

鰐口は神社や仏閣の軒に掛けて、参拝者が振って鳴らす道具です。



8 鉄製釣燈籠【広島県重要文化財】

形は六角形、火袋は格子型の打抜模様が施してあり、腰には金鍍金の跡のある鳶の葉模様と銘が打ち抜かれています。天正8(1580)年比叡尾山城主三吉隆亮が奉納したことがわかります。



9 金銅製板塔婆【広島県重要文化財】

社殿内陣の東西円柱に打ちつけてあった二枚の柱金具で、精巧に彫金加工が施してあり、三重塔の形に打ち抜かれています。いずれも弘治2(1556)年比叡尾山城主三吉致高、隆亮父子が寄進したことが記されています。



掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
6	神輿	昭和34年10月30日	甲奴町小童須佐神社	県	八角長柄構え、台車付き、反転屋根神輿 高さ3.4m、幅2.1m、重さ1.5トン	永正14(1517)年
7	銅製鰐口	昭和36年4月18日	布野町下布野知波夜比売神社	県	円形平鼓形 直径22.5cm、厚さ(中央)7.5cm	建武元(1334)年
8	鉄製釣燈籠	平成2年12月25日	皇敷町熊野神社	県	鍛鉄製 高さ33cm、総廻64cm	天正8(1580)年
9	金銅製板塔婆	平成2年12月25日	皇敷町熊野神社	県	金銅板製 高さ62cm、台幅20.8cm	弘治2(1556)年
10	知波夜比売神社鳥居	昭和57年2月20日	布野町下布野知波夜比売神社	市	明神鳥居 高さ410cm、笠の長さ510cm	貞享4(1687)年
11	檀田杵築神社石華表	平成5年10月25日	君田町檀田杵築神社	市	明神鳥居	正徳4(1714)年
12	東入君八幡神社石華表	平成5年10月25日	君田町東入君八幡神社	市		
13	西入君聖神社石華表	平成5年10月25日	君田町西入君聖神社	市		
14	東入君八幡神社絵馬	平成5年10月25日	君田町東入君八幡神社	市		
15	西入君聖神社絵馬	平成5年10月25日	君田町西入君聖神社	市		
16	高尾山八幡宮の社名扁額	平成16年3月3日	布野町下布野知波夜比売神社	市	縦90cm、横63cm、奥行き9cm	永禄7(1564)年
17	高尾山八幡宮の仏像	平成16年3月3日	布野町下布野知波夜比売神社	市	仏像3体(釈迦、文殊、普賢)	天文16(1547)年

仏教関係

仏教で礼拝の対象となる尊像を仏像といいます。一般的に如来・菩薩・明王・天の4種の部類に大別されますが、羅漢や各宗派の祖師たちの像を羅漢部として加えることがあります。

仏像の種類はとても多いため、今回は三次市指定文化財になっている種類を中心に紹介します。

仏像の 見方

【姿勢】

立像

立像：立った姿。直立像のほかに、腰をひねったものや、歩行の姿があります。

坐像

坐像：坐禅のような形で座っていることが多いですが、様々な座り方がります。

その他：台座や椅子に座った姿の倚像、片足を組んで考える半跏思惟像などがあります。

【その他】

手の形(印相)や持ち物(持物)などが、仏像の特徴やどんな願いで造られたかを表します。たくさんの種類があります。

如来(によらい)

悟りを開いて仏になった者(覚者)のことで、如来として共通の特徴が5つあります。

- 1 人間を超えた存在なので、肉体的にも人間とは違った特徴がある。
- 2 出家した姿なので、身にまとうのは衲衣だけで、装身具はつけない(大日如来を除く)。
- 3 髪型は小さな渦巻状の“螺髪”
- 4 1つの顔と2つの腕を持つ。
- 5 台座はすべて蓮の花の形をした蓮華座

釈迦如来

仏教の開祖ゴータマ=シッダルタのことで、その一生を形にした誕生・苦行・涅槃などの像が造られますが、日本では悟りを開いた釈迦が教えを説く像が多く作られます。手の形(印相)は開いた形が多くみられます。(掲載番号18~20)

18 木造釈迦如来坐像 【広島県重要文化財】

胎内銘によると、応安2(1369)年和智師実が寄進し、その後宝徳3(1451)年に京都の法眼院芸で修理したことがわかります。



薬師如来

東方琉璃光世界の如来です。人間の病苦をいやし、内面の苦悩を除くなどの誓いをたてています。平安時代初期から左手に薬壺を持つ形が一般的になりました。(掲載番号21~24)

21 木造薬師如来座像 【広島県重要文化財】

宝髪は螺髪でなく、切り込みであらわすなど、容姿は素朴ですが、衣文・肌の線に用いられた刀法や用材の使用法は本格的な技法を思わせるものがあります。作風から平安時代末期の作と推定されています。

22 木造薬師如来坐像 【広島県重要文化財】

体内に記された銘によると天文13(1544)年住職が永真のとき、吉舎南天山城主和智豊実を大檀那として、京都烏丸の雲慶の子孫と名乗る仏像製作者の康正によって造られました。

掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
18	木造釈迦如来坐像	昭和40年4月30日	吉舎町吉舎善逝寺	県	像高43cm	応安2(1369)年寄進 宝徳3(1451)年修理
19	木造釈迦如来坐像	昭和34年12月1日	三次町三勝寺	市	像高89.4cm 座幅70cm	
20	木造釈迦如来坐像	昭和57年8月31日	吉舎町安田香積寺	市	像高93cm、膝張63cm	
21	木造薬師如来座像	昭和33年1月18日	非公開	県	像高55cm、膝張42cm	
22	木造薬師如来坐像	昭和36年4月18日	海渡町帰海寺	県	像高88.2cm 膝張74.2cm	天文13(1544)年
23	木造薬師如来坐像	昭和57年8月31日	吉舎町上安田西福寺	市	像高53cm、膝張42cm	
24	寄木造薬師琉璃光如来立像	平成元年1月20日	作木町	市	像高61cm、肩幅20cm	

あみだ 阿弥陀如来

さいほうごくらくしやうど
西方極樂浄土の如来です。「阿弥陀」とは、限りない生命や無限の光明を持つ仏という意味です。日本では平安時代後期から急速に信仰が広まりました。手の形(印相)は親指と人差し指を合わせた形が多くみられます。(掲載番号25～33)

27 木造阿弥陀如来坐像 附体内仏、木造阿弥陀如来坐像1軀

【広島県重要文化財】

眼は玉眼で顔面・胸部に梨地の金泥を塗っています。彫法に翻波式刀法を残すなど古い形を残しています。保存がよく全体的にバランスの整った像です。室町時代(1333～1572)の作です。

なお、体内仏は寄木造、像高18cm、膝張15cmの小像で、法衣の文様などから江戸時代(1603～1867)のものと考えられています。



28 木造阿弥陀如来坐像【広島県重要文化財】

室町時代後期(16世紀)の特長をよく示した仏像です。檜材一木造で、玉眼が施されており、厚い衣の襷などうねりが大きく重たい様相です。熊野神社の旧御神体です。

33 木造阿弥陀如来坐像【三次市重要文化財】

平安時代後期の作です。丸みのある柔和な姿を表現する彫刻は巧みで、平安時代後期の仏像に特徴的な定朝様の作風を彷彿とさせる優れたものです。



28 木造阿弥陀如来坐像



33 木造阿弥陀如来坐像

だいにち 大日如来

宇宙の根本を司るとされる如来です。他の如来と違って、手の形や宝冠を身に着けているなど、菩薩のような特徴を持っています。(掲載番号34)

掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
25	木造阿弥陀如来坐像	昭和40年4月30日	吉舎町清綱浄土寺	県	像高96cm、膝張75cm	天文4(1535)年
26	木造阿弥陀如来坐像	昭和58年3月28日	吉舎町清綱浄土寺	県	像高51.5cm、膝張39.5cm	
27	木造阿弥陀如来坐像 附体内仏、木造阿弥陀如来坐像1軀	昭和58年3月28日	吉舎町敷地西光寺	県	像高43.5cm、膝張35.5cm 胎内仏/像高18cm、膝張15cm	
28	木造阿弥陀如来坐像	平成2年12月25日	皇敷町熊野神社	県	一木造 像高18.3cm	天文4(1535)年
29	木造阿弥陀如来立像	昭和34年12月1日	皇敷町岩屋寺	市	像高37cm、幅10cm	
30	絹本着色阿弥陀如来立像	平成元年1月20日	作木町下作木東光坊	市	縦90.5cm、横37.5cm	天文14(1545)年
31	木造阿弥陀如来立像	平成元年1月20日	作木町下作木東光坊	市	像高59.5cm、肩幅18cm	慶長10(1605)年
32	木造阿弥陀如来立像	平成元年1月20日	作木町大山浄円寺	市	像高71cm、肩幅22cm	慶長11(1606)年
33	木造阿弥陀如来坐像	平成13年10月29日	青河町西光寺	市	像高86.4cm、膝張71cm	
34	木造大日如来坐像	昭和34年12月1日	皇敷町如来堂	市	像高50cm、幅33cm	

菩薩 (ぼさつ)

悟りを求める人を意味した言葉で、如来の境地に達するため修行をしています。そのため、宝冠や胸飾り、腕釧(腕輪)など多くの飾りを身に着けています。また、人々を救済するという想いから、慈悲の表情をしています。(掲載番号35～37)

35 絹本着色観音三十三身像

【広島県重要文化財】

作者は不明ですが室町時代の作。応永31(1424)年12月20日出雲国仁多郡阿井郷(島根県奥出雲町)の月深良運が大慈寺へ寄進したものと伝えられています。(宗綱語録)



36 木造地藏菩薩坐像

【広島県重要文化財】

この地藏菩薩は、もともと中世に南天山城を築いた和智氏の持仏で、和智誠春が毛利氏によって殺された際、城外へ持ち出され、町内の寺院を経た後、宝寿寺に伝えられました。両脚を半跏坐として、顔の表情も上品で洗練された表現で、生気が感じられるものです。全体的に繊細に彫られており、秀麗な印象を受ける仏像です。保存状態も極めて良く、南北朝時代(1333～1392)の優美さを感じさせます。

明王 (みょうおう)

如来の想いを伝え、悪をやぶる使者です。忿怒の形相(怒り、にらみつけるような顔)を示すのが一般的です。腕や顔がたくさんある姿も多く、その手には悪をこらしめる武器などを持っています。(掲載番号38)

天 (てん)

仏教が成立する前から、インドにあった他の宗教の神々が仏教に入って護法神になったものです。門に配置されている金剛力士や四天王などが属します。三次市には指定文化財はありません。

羅漢 (らかん)

尊敬すべき人という意味で、仏道を修行して煩惱をたち切り、仏教の各宗派の祖師となった人達の像です。(掲載番号39・40)

39 木造日蓮上人坐像

玉眼入りの小品で裳懸座式台座と一体になっており、周囲に法衣を垂らしています。その下の礼盤座の底部の板張りには墨書があり、文明5(1473)年に製作されたと推定されています。

右手に笏を持ち、左手は手のひらを開いているので、経巻を持っていたと思われます。法衣は日蓮宗独特のもので、盛んであった室町時代につくられ、おそらく旅用として持ち歩いたものと思われ、時々その所有者を変えたのでしょう。



掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
35	絹本着色観音三十三身像	平成元年3月20日	吉舎町吉舎大慈寺	県		
36	木造地藏菩薩坐像	平成5年2月25日	吉舎町三玉宝寿寺	県	像高48cm	
37	如意輪観音像	平成16年3月3日	布野町横谷光西寺	市		宝暦2(1752)年
38	木造不動明王立像	昭和34年12月1日	畠敷町岩屋寺	市	高さ88cm、幅25cm	元龜2(1571)年
39	木造日蓮上人坐像	昭和53年1月31日	向江田町十林寺	県	像高13.5cm、像幅14.7cm	文明5(1473)年
40	木造開山平田珣和尚坐像	昭和34年12月1日	三次町西江寺	市	高さ86cm、幅60cm	

寺院の由緒などを示す文化財

寺院によっては、その寺院を建てた人(開山)に関する品や、寺院の歴史を示す文化財が残されています。(掲載番号④1～④3)



④2 大慈寺開山遺品

④3 顕如上人血染の名号【三次市重要文化財】

天正4(1576)年(安土桃山時代)、織田信長が石山本願寺(大阪府大阪市)を攻めた時、東光坊の二代目住職了教が、毛利氏に協力し、本願寺援助のため立ちあがりました。了教は抜群の働きをしたため、本願寺の顕如上人から、「六字の名号」を受けました。戦いの後であったため、血が染みだした刀の柄巻(麻布)に認められたそうです。



仏具等

法要や儀式に使う道具のことです。仏像などの周辺にある飾りなどを仏具、導師(僧侶)が使う法具などがあります。(掲載番号④4～④9)

④4 銅鐘【広島県重要文化財】

永和2(1376)年に播州永良荘(兵庫県市川町)の護聖寺のために鑄造されたものです。追銘によると長享元(1487)年周防大島三浦本庄(山口県周防大島町)志駄岸八幡宮の鐘となっており、大壇那として大内政弘の名前が見えます。

この銅鐘が、どのような経緯を経て三勝寺に納まったかは不明です。



④7 正覚寺 梵鐘



④9 真鍮華立て

掲載番号	名称	指定年月日	所在地	指定区分	構造・寸法	年代(銘文)
④1	紙本和智氏美頂相	昭和39年3月30日	吉舎町吉舎 大慈寺	市		
④2	大慈寺開山遺品	昭和39年3月30日	吉舎町吉舎 大慈寺	市	「宗綱遺偈」のほか、鉢猛1揃・衣1・袈裟1・布行1・纏1・べっ子1・筆大小各1・硯1・香炉1・湯呑2	
④3	顕如上人血染の名号	平成元年1月20日	作木町下作木 東光坊	市	長さ56.5cm、幅14.6cm	
④4	銅鐘	昭和29年4月29日	三次町 三勝寺	県	高さ87.5cm、口径49.5cm	永和2(1376)年鑄造 長享元(1487)年追銘
④5	西光寺 梵鐘	昭和39年3月30日	吉舎町敷地 西光寺	市		寛政11(1799)年
④6	西福寺 梵鐘	昭和40年12月22日	吉舎町上安田 西福寺	市	高さ114cm、直径65.5cm	延享元(1744)年
④7	正覚寺 梵鐘	昭和40年12月22日	吉舎町上安田 正覚寺	市	高さ108cm、直径62cm	文政11(1828)年
④8	香積寺 半鐘	昭和57年8月31日	吉舎町安田 香積寺	市	高さ50.5cm、直径30.8cm	銘あり
④9	真鍮華立て	平成16年3月3日	布野町上布野 福泉坊	市		貞享2(1685)年



重要文化財とは

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍^{てんせき}、古文書その他の有形の文化財で日本の歴史上または芸術上価値の高いものや考古資料、その他の学術上価値の高い歴史資料のことで、有形文化財と呼ばれています。

重要文化財の 種類

- 建造物 (神社仏閣や城郭、民家など)
- 美術工芸品
(絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など)

今回は、美術工芸品の中から、大きく、神社関係と寺院関係に分けて紹介しています。

日本の神社・寺院

日本では、あらゆるものに神が宿っていると考えてきました。山や森、巨石や巨木などの自然や、自然現象、祖先や村の守り神などを祀り^{まつ}、祭祀^{さいし}を行いました。

しかし、中国や朝鮮半島との交流のなかで、仏教が伝来し(538年)、仏教の教えを広め、修行する寺院が造られました。やがて、日本では神と仏教が混ざり合い(神仏習合^{しゅうごう})、生活に密着してきました。

明治時代になり、この2つを分け、仏教を排除するよう運動が起こりました(神仏分離令^{ぶんりれい})。

これにより、神社と寺院が分離し、仏像等が失われましたが、それぞれの神社や寺院は、地域で守られ、多くの文化財が現在まで継承されています。

発行年月日 令和3(2021)年3月

編集・発行 三次市教育委員会

〒728-8501 広島県三次市十日市中二丁目8番1号 TEL 0824-62-6191

資料・写真提供 広島県教育委員会 広島県立歴史民俗資料館

印刷 株式会社 菁文社